

hyvä sauna+studio+kitchen

[地域の事物]と〈自他のリズム〉の出会い

身も心も整って新しい自分に「出会う」サウナ。それは、地域の事物である山、木、火、石、水、風、地、空を介して自分も他者もリズムが重なり響き合う時間。エントランスキッチンや家事スタジオでの多様な地域活動が生まれることを目指した既存店舗の改修と増築の複合プロジェクト。

① 全てのはじまりは地域の薪とコミュニティ

施設の北側に広がる太郎山のき、御影石を熱して心地よい籠にはオーナー家族の薪割場が暖かさのサウナを提供。地域資源。hyvä saunaは自分たちで薪の連なりを体験することがつかった薪を使ってストーブを焚くことができる。



地元住民と長年培ったコミュニティにより間伐材の提供を受け、オーナーが薪割場で加工する

② 地域の事物に囲われ整う地の水風呂と山の外気浴



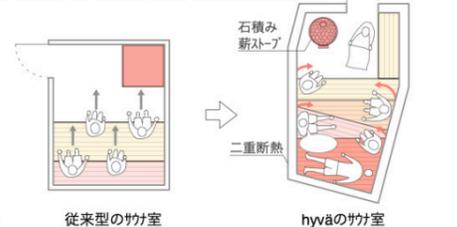
北側に広がる菟峰の山並みを眺めながら整えるように、外気浴スペースの床を地面レベルよりも高くつくる。外からの視線を遮るガマツの壁の高さも抑えられ、ヒノキのデッキに寝ころがって外気浴を楽しめる。



山並みの眺め、複数の活動がコンパクトに隣合う、地を感じる水風呂

③ 気軽な会話が生まれる石と火を囲うサウナ

一般的なサウナの場合、ベンチが並列に設置され、利用者間のコミュニケーションは生まれにくい。hyväのサウナではベンチの角度を振ることで、利用者同士が自然に向き合い、コミュニケーションが生まれるサウナを目指した。ベンチの段数を4段設けることで、上方に行く程気積と気流が圧縮される仕組みで熱環境に幅のあるサウナとした。ベンチの奥行きにもゆとりがあり、特に最上段は寝そべることもできる。



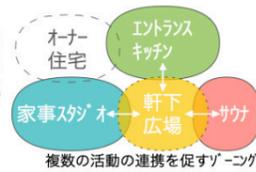
正面を向いて一線に並び黙々と入る火を囲う向き合う姿勢で会話が生まれる



斜めのベンチが利用者同士の間をつくり、サウナ内のコミュニケーションを促す

④ サウナ、キッチン、家事スタジオをつなぐ軒下広場

hyväは、サウナだけでなく飲食や家事の場を併設している。それぞれの場が直接的に隣り合うのではなく、軒下広場がそれぞれの領域をつなぎながら同時多発的な活動の連携を促し、利用者を迎えるエントランスにもなっている。



複数の活動の連携を促すゾーニング



サウナやキッチン、家事スタジオから自然と人が集まり出会う



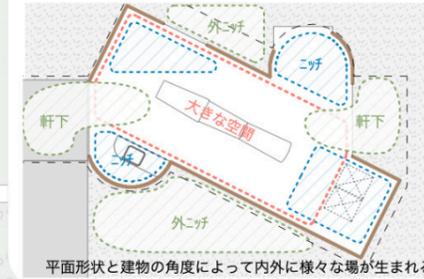
家事スタジオと軒下広場、外気浴スペースを横断する大屋根が建物全体を迎える7オードとゲート性をつくり出す



同時多発的に行われる複数の活動をつなぐ軒下広場

⑤ フレキシブルで大きな空間と活動をサポートするニッチが居場所をつくる家事スタジオ

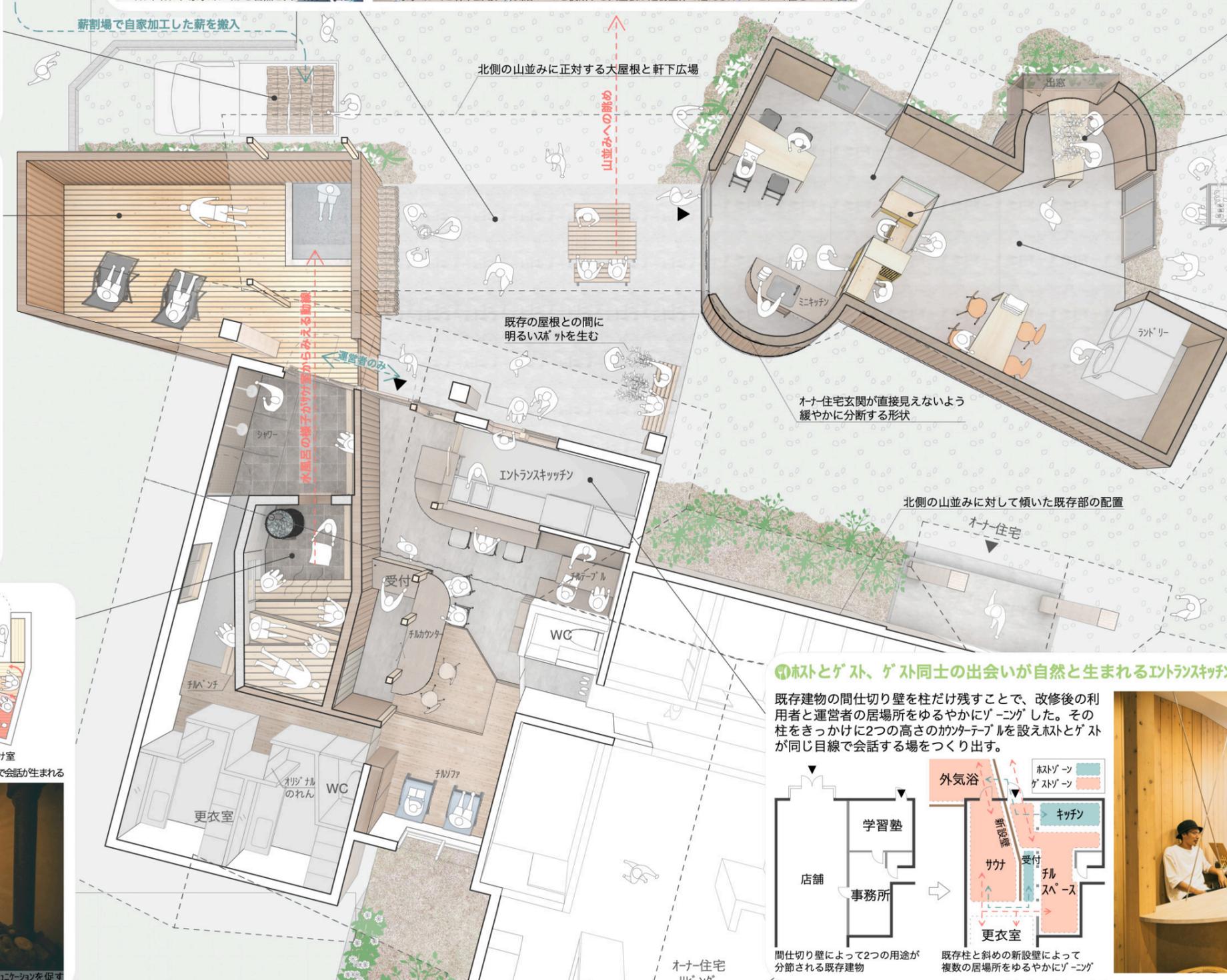
単純な矩形平面ではなく、小さなニッチを付加することで様々なスケールの活動に対応することができる。



平面形状と建物の角度によって内外に様々な場が生まれる



大きな空間を利用した大人数のWSが開催される使用例



⑥ 居場所をつくる組み合わせ家具

子供と大人が混在する大人数WSに使用する3段テーブルや、地域住民によるフレキシブルなジョブをサポートできるフレキシブル家具を製作した。家具の組み合わせ方や配置によって、家事スタジオ内に多様な活動や利用者の年齢、姿勢に対応する居場所をつくり出す。



年齢や姿勢に対応する3段テーブル

カッターや収納、間仕切りとして機能する

⑦ サードプレイスの価値の創造

家事スタジオでは、サウナをきっかけとしたコミュニティによって定期的に子供食堂や地域の駄菓子屋が開かれ、利用者たちのサードプレイスとしての価値が創造されている。



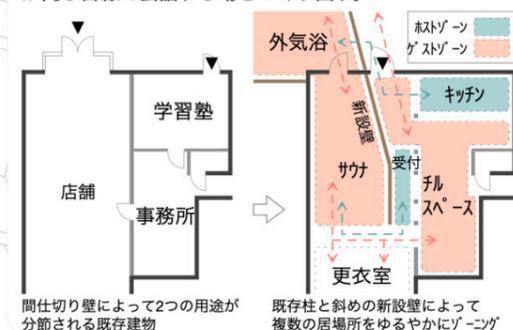
家具を使った地域の駄菓子屋



フレキシブルな大空間でキッチン、テーブルを利用した子供食堂の開催

⑧ 木とゲスト、ゲスト同士の出会いが自然と生まれるエントランスキッチン

既存建物の間仕切り壁を柱だけ残すことで、改修後の利用者と運営者の居場所をゆるやかにゾーニングした。その柱をきっかけに2つの高さのカッターテーブルを設け木とゲストが同じ目線で会話する場をつくり出す。



間仕切り壁によって2つの用途が分節される既存建物

既存柱と斜めの新設壁によって複数の居場所をゆるやかにゾーニング



既存柱をきっかけに様々な出会いが同じ空間に同時に生まれる